

# 発見！まちのグルメ

## くつろぎ Café やまぼうし



西大井駅から住宅街を歩いて行くと、赤いトンがり帽子の素敵な看板が見えてきます。緑に囲まれたテラスを通り、木の扉を開けると、大きなガラス窓から明るい光が差しこむ居心地の良い空間が広がります。迎えてくれたのは、ご主人の川島忠興(ただおき)さん。「人々が集まりつながっていく、コミュニティの場を提供したい」という思いから、ご自身の生家を建て替えて「くつろぎCaféやまぼうし」をオープンされました。入口は段差のないバリアフリー仕様。ベビーカーで訪れるお客様も多いそうです。



ご主人の川島さん



大きな窓から緑を楽しめる店内

ティータイムにはコーヒー・紅茶やケーキ、ランチタイムには軽食をいただけます。一杯ずつ丁寧にハンドドリップで淹れられたコーヒーは、ホッとするおいしさ。人気メニューの「ふんわりパンケーキ」はボリュームたっぷり。親子でシェアして食べたい一品です。

当初、このスペースで落語の会を開催したいと思われていたご主人。現在は落語の会のほか、コンサート、作家さんによる展示会、お教室など、さまざまなイベントが開催されています。また毎月一回、子ども食堂『トントンのみんなの食堂』がオープン。人々が集う交流の場となっています。

コーヒーカップ、ケーキ皿などの陶器はご主人のお手製。希少な古書、ご主人が撮影された山の写真などもあり、ご主人との会話も弾みます。店の奥にある小さなお庭にはメジロが飛んで来ることも。あちこちにぬくもりが感じられる素敵な空間で、ゆったりとしたひと時を過ごしてみませんか。

【中山・加藤】

### くつろぎ Café やまぼうし

品川区二葉3-3-5  
電話：03-6320-0009  
営業時間：10:00-18:00  
定休日：水曜・日曜・祝祭日  
<https://yamaboushi.shopinfo.jp/>



ふんわりパンケーキ



ケーキセットはお手製のコーヒーカップで

## 「鳴龍」 山中小5年 チョビ



日光東照宮の天井画「鳴き龍」の模写ですね。

渋い！鱗やヒゲなどの細かいディテールもよく拾えて描けていると思います。背景の稲妻や雲は少し形が甘いので、実際の雲や雷を参考に描いてみよう。オリジナル作品も待ってるよ！ 【五十嵐】



もやしは足が速い？



母：今日は野菜を色々買ってきたんだけど、もやしは足が早いから早く使わないとね。  
息子：もやしって走れるの？  
母：足はないよね？  
息子：ちがう ちがう。足が早いってというのは、早く傷みやすいという意味なのよ。  
息子：なーんだ、そういう意味があるのか。  
母：ぼく走るのが遅いから代わりに運動会に出てもらおうと思っちゃったよ(笑)  
息子：もやしは運動会で走っている姿を想像したら笑ってしまいました 【八木下】



第22回

### わ!しながわ 堀之内 八千代さん

地域の方を紹介するコーナー。次の方を紹介して頂き「地域の輪」をつなげていきます。

大井三丁目(旧山中町)。大井第一小学校を卒業され、昭和57年に柿島医院をやまなか公園横の、現在の場所に開業されました。昨年より、循環器内科を専門にしている娘さんが手伝っており、ご自身はペインクリニックと一般内科の診療を担当されているそうです。患者さんと接するときは、常に笑顔忘れずに患者様と向き合い、症状など話をよく聞くことや、検査や治療について分かりやすく説明すること、心がけているそうです。また、「年のせい」は禁句！との若々しいお言葉も。ストレス解消法は買い物に行くこと。コロナでテーパーなどには行けませんが、コンビニやスーパーで目新しい物を見つけて買い物をすることがあります。趣味は「なんでもやりたがる人」と仰る通り、学生時代はバレーボール、社会人になってゴルフ、カラオケなど、多様な様子。どんな診療所を目指していきたいですか？との質問に、「世の中の自然な成り行きで、カルテも検査機器も電子化の時代、ロボット活躍の時代になるかも？アナログ人間には辛い！」と茶目つ気たつぷりにお話しされていました。



小学生はもちろん、筆記具といえば鉛筆が定番です。短くなった鉛筆…捨て時がわからなくて引き出しにたくさん眠ってる…なんてご家庭、結構あるのでは？そこで今回、三菱鉛筆株式会社が開発した、木材を主原料とする「鉛筆」を回収し、再利用をする「鉛筆の資源循環システム」と、実際に品川区内でこのシステムの実証実験として取り組んでいる11校の中から、山中小学校の守田校長先生にお話を伺いました。 【高木・八木下 レイアウト角矢】

## 「鉛筆リサイクル」ひろめ隊！



鉛筆回収ボックス

子どもたちの反応はすごいですか  
本校では、学校中でSDGs(エスディーズ)を学習し、様々な活動に取り組んでいるので、すんなりと受け入れられました。  
リサイクルボックスの管理は誰がしていますか  
代表委員会の子どもたちが管理しており、現在120グラムも集まりました。  
実際に取り組み始めた子ども達からなにが意見がありましたか  
回収ボックスが気になるらしく、いつも誰かが覗いていました。  
「早くいっぱいになるといいな」「鉛筆もリサイクルできるんだね」「鉛筆リサイクルもSDGsの取り組みだね。」などの声があります。

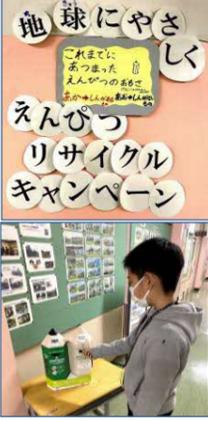
鉛筆リサイクルの流れが分かるように、各クラスに掲示がされています。その他、山中小ではSDGs17の取り組み目標が各クラスにカードとして掲示され、授業の中でそのカードが大活躍しています。  
校長先生から何かお言葉があればお願いします  
ペットボトルや空き缶など、身の回りにはたくさんのリサイクル品がありますが、子どもたちにとって一番身近な「鉛筆」をリサイクルとして取り扱うことは、環境問題について考える入り口として、入りやすいテーマなのではないかと考えています。家庭でも話題にしたいので、親子で一緒に取り組んで欲しいですね。

三菱鉛筆株式会社 商品開発部  
岡田都美子さんにお話を伺ってきました。

品川区に本社がある三菱鉛筆株式会社が再生利用しやすい鉛筆「フォレストサポーター鉛筆」を開発しました。フォレストサポーター鉛筆とは自然由来の接着剤を使い肥料への再生利用がしやすいもので素材としては「ひのき」を使っています。また正しく持つことができる長さまで芯が入っており、後半には芯が入っていません。使い終わると芯がなくなるので再利用しやすいという利点があります。(写真参照)



鉛筆の資源環境システムとして、使い終わった今までの鉛筆はバイオマス発電の燃料として再利用します。また今回開発したフォレストサポーター鉛筆は、三菱鉛筆で回収して木粉化し、サカタのタネの開発協力を得て「棒状肥料」へ加工したあと、回収箱を設置してくれた学校へ無償配布しています。そして学校の花壇で植物の栄養となり資源のリサイクルを可能としています。



地球にやさしく  
えんぴつリサイクル  
キャンペーン